

山大病院だより

1 2015
月号
vol.220



特集 2014年を振り返って



新年を迎えて

山口大学医学部附属病院 病院長 田口敏彦

みなさん、あけましておめでとうございます。

今年はやや長めの正月休みとなりましたが、ゆつくり休むことができましたでしょうか？

いよいよ今年からは、新病棟の建設を含む、病院全体の再整備が本格的にスタートします。

再整備にあたっては、まず「どんな病院を建てるか」という基本的な考え方について、何度も協議を重ねました。その中で、本院の目指すべき将来像として「Your Health, Our Wish」(あなたのために)というスローガンが誕生しました。このスローガンには、施設や設備を新しくする一方で、患者さんのことを第一に考える本院の伝統は大切にしていきたいという想いが込められています。

平成30年には、地下1階、地上14階、延床面積34,060㎡の新病棟が完成予定です。平成35年には、既存建物の全面的な改修も完了を予定しています。

これから長い工事期間に入り、さまざまな困難が出てくると思われますが、この再開・整備は、今後の本院発展のためには、避けては通れないものです。患者さんをはじめ、地域の皆さまにはいろいろご不便をおかけすることとなりますが、ご理解ご支援を賜りますようお願いいたします。

我々はこの大切な時期を全スタッフが丸となり、チーム医療としてのモチベーションを高くもって乗り越えていかなければなりません。そのためには、同じ施設の中で苦労している他部門の事情を考慮し、お互いに緊密に理解し合うことが結束と飛躍のための第一歩です。多くの人が情報を共有化できるシステム作りをしながら、各部門の客観的評価を取り入れていきたいと思えます。

未来を見据えた病院機能強化には、医師・看護師をはじめ人員の大幅な増員も必要ですが、同時に「全ての価値基準を患者さんのために」という想いをスタッフ全員で共有することが必要であり、そのための環境作りにも努めていきます。

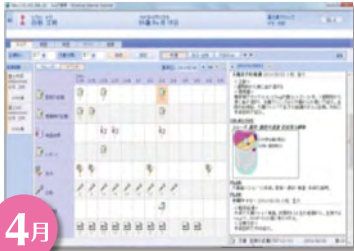
『Your Health, Our Wish』

を合言葉に、皆さんには大きな夢をもつこの二年仕事に取り組んで頂くことをお願いいたします。私の新年の挨拶に代えさせていただきます。

どうかみなさん、心を一つにしてがんばっていきましょう。



病院 2014 年を振り返って



4月

さんさんネットを開設

平成26年4月1日より、宇部、山陽小野田、美祢圏域において、電子化した診療情報を専用回線で共有する「さんさんネット」を開設しました。



2月

人命救助表彰式



1月

韓国の春海保健大学看護学科長らが来学

1月29日に韓国の春海保健大学から看護学科長と学生の訪問がありました。



1月

「恋するフォーチュンクッキー」で宇部市をPR

2014



4月

病院機能評価認定

財団法人日本医療機能評価機構による「病院機能評価(機能種別版評価項目3rdG:Ver.1.0)一般病院2」に認定されました。平成10年に国立大学附属病院として初めて認定を受けてから、今回で4回目の認定となります。



4月

ドクターヘリの格納庫が完成



3月

再生・細胞治療センターに世界最高レベルのCPCシステムを設置



Your Health, Our Wish

—あなたのために—



医事課診療報酬係
杉山千佳さん

2015年は正確さ丁寧さを意識してスキルアップしていきたいと思っております。まだまだ微力ですが、病院の力になれるよう、めえ〜いっぱい頑張っていきます!今後ともよろしくお願ひ致します。



1病棟8階西看護師
(左から)
丸田順子さん
岡田幸江さん
縄田晴香さん
五島育美さん

眠れぬ夜は私たちが
思い浮かべてください。
by4頭

いよいよ新しい年のスタートです。
 今年は、より充実した地域医療の提供を目指して、
 新病棟建設をはじめとした再開発整備事業が本格始動します。
 そこで、山大病院の昨年の出来事をまとめてみました。
LOOK BACK 2014!



10月

世界初の高精度動体追跡放射線治療システムがいよいよ稼働開始



8月

病院再開発整備事業のHPを開設

新病棟建設など、病院再開発整備事業が本格的に始まりました。



6月

病院だよりをリニューアル

ページを増やし、2000部に増刷。外来ロビーと売店前などに設置しています。



5月

耳鼻咽喉科学分野の菅原一真講師が第28回国際バラニー学会でYoung Scientist Awardを受賞



10月

第3内科の湯尻俊昭准教授が、ベストドクターズ社より「Best Doctors in Japan 2014-2015」に選出



6月

猪上妙子看護部長が「山口県健康福祉功労者知事表彰」を受賞



6月

「宇部興産学術振興財団第54回学術奨励賞」「渡辺記念特別奨励賞」を受賞

大学院医学系研究科眼科学分野の柳井亮二講師、医学部分子代謝制御学(MSD)講座太田康晴准教授が「宇部興産学術振興財団第54回学術奨励賞」を受賞。大学院医学系研究科免疫学分野の佐古田幸美フェニックス助教が「渡辺記念特別奨励賞」を受賞。



6月

外来棟横の立体駐車場建て替え工事を開始

平成27年3月末完成予定。新立体駐車場は528台駐車可能です。工事期間中は大変ご不便をおかけしますが、ご協力をお願いいたします。

TOWARDS 2015
2015年を向かって
 「ひっじ年」
 山大病院の年男・年女

2015年の干支はひっじ。
 今年年男、年女の節目を迎える
 病院職員を紹介します。



総務課育成支援係
佐野克樹さん

新年おめでとうございます。旧年中は右も左も分からず、ご迷惑をお掛けしてばかりおりましたが、本年は羊のように広い視野を持って仕事に励んでいきたいと思っております。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

10月8日 藤山中学校の生徒たちが職場体験を行いました。参加者2人

職場体験

昨年も将来医師、看護師などを目指す小中高生が、職場体験・見学を行いました。

この学習は小中高生が実際に現場で働く人に話を聞いたり、仕事を体験したりすることを通じて、将来の進路選択に役立てるために行われているものです。

みなさん、将来の夢の実現に向けてがんばってください。

9:00～ 小児科の診療業務見学



12:00～ 昼食



13:00～ ドクターヘリ見学



13:30～ クリニカルスキルアップセンター^{*}見学



※クリニカルスキルアップセンターは、山口大学医学部の医師、研修医、看護師等が、採血をはじめとする基本的診療技術や高度な医療技術を自主的に練習できるよう、様々な最新の学習機材を備えた施設です。

14:00～ 第2内科の診療業務見学



15:00～ 病院整備計画室見学



新病棟建設など新たに始まる病院整備計画の説明を受けました。

VOICE

私はこの体験学習で、たくさんのことを学ぶことができました。人と人とのコミュニケーションの大切さ、患者さんからの信頼の大切さ、笑顔や、優しく接することの大切さ、チームの団結の大切さ、患者さんを一番に考えた言動や対応、施設の工夫など、色々知ることができました。日常生活では得られないことをたくさん得られて、とても良い経験になりました。

VOICE

私が、この職場体験で一番印象に残ったことは、看護師の方がとてもよく患者さんの話を聞いておられたことです。患者さんとたくさんコミュニケーションをとって患者さんを安心させることの大切さを知りました。大変な仕事も多いけど、大切な仕事だとあらためて実感することができました。

VOICE

私が、この職場体験学習で一番心に残ったことは、昼食を一緒に配らせていただいたことです。昼食が一人一人自分に合った量になっていたり、部屋に入るときも、一人ずつ名前を呼んでから入ったり、患者さんのことをよく考えた工夫がされているのだなと思いました。また、コミュニケーションの大切さを学びました。看護師という仕事にコミュニケーションというのは欠かせないものだと実感し、いつも笑顔で患者さんと接していらっしゃる看護師のみなさんは、本当にすごいなと思いました。

職場体験の感想

職場体験に参加された生徒さんの感想を一部ご紹介します

も秘めているのです。

私たちが注目しているのは、コミュニケーション教育の持つ地域性です。コミュニケーション教育を搬入すれば、地域の公民館や学校でも医療現場が再現できることでもあります。逆に関心のある大学や大病院でも、地域の診療所を再現できます。"ここは島の診療所です。血液検査の結果が出るまで一日掛かります"、"残念ながらCT検査はありません"、"天候が悪くドクターヘリは飛びません"など、医療環境や医療資源の条件を厳しくするシナリオも簡単に作ることもできます。この様にコミュニケーション教育は、無限の地域性を秘めているのです。

知識や技術を持っていても患者さんの状況に応じてそれを生かすことが出来ない、医療現場では、却って悪循環を生んでしまうこともあります。医療用のシミュレーターを使用することで、何度でも同じ医療環境で訓練ができ、実際の医療現場でも自然に知識や技術が発揮出来る様になります。重要どころはゆっくり何度でも行うことも出来ず、逆に目的としない部分は省略も可能です。

地域医療だより

シミュレーション教育と地域医療

地域医療推進学講座

中村浩士



6月 REPORT

山口県立大津緑洋高等学校

6月6日 山口県立大津緑洋高等学校の生徒たちが職場体験を行いました。参加者8人

◀ 第一外科の桂先生に「医師になるきっかけは?」「今何をすればいいですか?」など活発に質問をする場面もありました。



病院の概要説明を受けました。



再生医療教育研究センターを見学しました。

8月 REPORT

美祢子ども交流塾

8月4日 美祢子ども交流塾のみなさんが見学を行いました。参加者26人

▶ ドクターヘリの前で。



みなさんには無限の可能性が 있습니다。



8月 REPORT

宇部市立西岐波中学校

8月19日 西岐波中学校の生徒たちが職場体験を行いました。参加者4人

◀ 実際に病棟で看護体験をしました。



はじめに原田看護副部長からあいさつや手洗いななどの説明がありました。

夢の実現に向けてがんばってください!



病棟で昼食の配膳を手伝いました。

10月 REPORT

宇部市立川上中学校

10月16日 川上中学校の生徒たちが職場体験を行いました。参加者10人

▶ 看護体験終了後には感想を発表しました。



高校生を対象とした窒息への対応の様子。通常では経験できない様な応急処置の方法を楽しく学べます。



地域における心肺蘇生法の講習会の様子。時には市民の方も同じ環境で学ぶことで、チーム医療や地域連携を強化することができます。



医学科5年生の臨床実習の様子。呼吸器の解剖を精細に再現したシミュレーターに対して、本物の気管支内視鏡装置を使い、通常では習得困難な検査手技を、納得いくまで何度でも練習できます。



5月に院内で行なわれた日本内科学会認定のJMECC(内科救急)講習会の様子。患者(高規格シミュレーター)の容態は、このあと“急変する”という最悪のシナリオが待っています。

病棟リレー

各病棟を紹介します！

1 病棟 8 階 東

1 病棟 8 階東は、皮膚科 25 床、血液内科、糖尿病・内分泌内科 5 床、麻酔科 4 床、共通病床 3 床の混合病棟で、24 名(平成 26 年 11 月現在)の看護師が働いています。

皮膚科では、全身熱傷や褥瘡(床ずれ)、さまざまな皮膚科疾患の手術や放射線療法、化学療法、免疫療法など幅広い治療が行われています。私たちは、医師と共に全身浴や広範囲なガーゼ交換、皮膚症状に合わせた外用療法、スキンケア指導など行いながら、痛みやかゆみ、術後の安静に伴う



今日も「健康・身だしなみチェック」で一日がスタート

身体的苦痛やボディイメージに関わる精神的苦痛の緩和に努めています。

血液内科、糖尿病・内分泌内科では、内分必検査や骨髄検査など診断から治療導入という大切な時期をサポートさせていただいています。

麻酔科では、慢性的な痛みを抱えておられる患者さんの神経ブロックや薬物療法によるペインコントロールを行うっていく上で、医師や看護師によるメンタルサポートがとても重要となります。

私たちは、感染予防対策や治療に伴う疼痛や副作用による苦痛を緩和するためのケアなど混合病棟ならではの多面的な知識や技術の習得に努め、院内の様々な専門チームにサポートを受けながら患者さんの社会復帰に向けて日々看護を行っています。今年度の部署のキャッチフレーズは、「支え合う力・技・笑顔」です。チーム間での「報・連・相(報告・連絡・相談)」を合い言葉に、チームリーダーが中心となり業務分担や調整を行うことで、互いの看護力を補完し高め合っています。

また昨年度から、毎朝全体の申し送り後に「健康・身だしなみチェック」を始めまし



「手指衛生」は感染対策の基本！啓発運動実施中

た。2、3 人でお互いが鏡になるよう対面して挨拶を交わし、体調や身だしなみをしっかり確認し合ってから、患者さんを訪問しています。その際に日勤担当看護師が誰であるかわかるように、ネームプレートを提示し自己紹介を行っています。スタッフ一同が、患者さんへの誠意と責任を持ち安心して一日を任せていただけるようにと始めたことですが、今では患者さんからも好評となつています。

今年度の部署の取り組みで自慢することは、感染対策の基本となる手指衛生の意識付けのため感染リンクナースの提案から始めた「手指衛生チェック」です。各チーム一人ずつ手指衛生缶バッジ(デザインは当病棟スタッフによるものです)を付け、一日のスタッフの手指衛生状況を確認したり、啓発したりすることで手指衛生を向上させていくという取り組みです。その成果があり、毎月当病棟の手指消毒液使用量目標である 2 万 5 千 ml を達成しています。

私たちは、これからも強い結束力と患者さんやご家族に寄り添えるあたたかい看護でみなさんに愛される病棟作りを目指し邁進します。

三好雅代看護師長より一言
今年度の部署目標は、前年度、病院機能評価の対象病棟として得た「患者の視点に立った療養環境とケアプロセス」を点検・維持することでより安全で快適な病床環境と質の高い看護を提供することです。有効な病床利用のため、混合病棟として他診療科の患者さんを受け入れることが多くあります。スタッフは、患者さんはもちろんのこと他科の医師も笑顔で迎えています。そんなスタッフの底力に支えられ安心して楽しく病床管理を行っています。どうぞ私たちにお任せください。



元気いっぱいの看護助手、病院クラークと(三好師長中央)



栄養治療部

季節のレシピ
recipe

秘伝?の調味料は
中々の優れもの!



Today's
menu

甘だれ

あけましておめでとうございます
今年最初に紹介するのは、
栄養治療部副部長秘伝?の調味料です。
時短テクができる調味料(甘だれ)を
皆さんも作ってみませんか?
作り置きできるので、とっても便利です。
レポートの幅も広がるかも?



ぶり照り焼き
ぶりをフライパンで焼いて
甘だれをからめるだけ。

材料

- 醤油…………… 1000ml
- 砂糖…………… 400g
- 酒…………… 400ml
- 本みりん…………… 400ml

栄養成分 大さじ1杯

- エネルギー…………… 30kcal
- 塩分…………… 1.2g

作り方

- ① 酒と本みりんを鍋に入れ火にかけ、軽く沸騰させアルコール分を飛ばし、次に醤油、砂糖を入れ、ひと煮立ちさせます。
- ② 鍋のまま冷まし、乾燥させた保存容器に移せば完成です。

※ 乾燥が不十分な容器に入れてしまうと雑菌が繁殖してしまうので注意!
※ 減塩醤油にすると塩分が半分になり、甘さが気になる場合は砂糖を減らして好みの甘さに調節してください。
※ 糖尿病の方は砂糖を人工甘味料にするなどの工夫を。

その他、鶏肉と野菜やキノコをフライパンで蒸し焼きにし、この甘だれで味付けるのもおすすめ。ショウガやネギを入れると、さらに美味しくできます。

正月の残りのおもちなどにも
利用してみたいはいかがでしょうか?



©監修：管理栄養士 有富早苗 福田有子

ホットなニュースをご紹介します

山/大/病/院 NEWS

Part 1

♪「クリスマスの夕べ」で心安らく♪



12月24日(水)、外来ロビーにおいて、恒例の「クリスマスの夕べ」を開催しました。

開演に先立ち、集まっていた患者さん達へ、クリスマスプレゼントが配られ、田口病院長の挨拶の後、本院内保育所「たんぼぼ保育園」の園児による遊戯や宇部市を中心に活動しているアンサンブルユニット「poco a poco(ポコ ア ポコ)」による演奏が行われ、集まった約200人はとても楽しい時間を過ごしました。

バレーボール大会優勝「チームそらまめ」(1病棟7階東)



優勝「チームそらまめ」、
準優勝「チーム第2外科」のみなさん

11月15日(土)に、教職員レクリエーション行事として恒例のバレーボール大会が開催され、全13チーム・総勢300人が参加して、熱戦が繰り広げられました。

栄えある優勝は「チームそらまめ」(1病棟7階東)、準優勝は「チーム第2外科」でした。おめでとうございます!

平成26年度

山口大学医学部解剖献体者慰霊祭



坂井田医学部長の追悼の辞

10月10日(金)、宇部市渡辺翁記念会館において、平成26年度解剖献体者慰霊祭をしめやかに執り行いました。

祭主の坂井田医学部長をはじめ、古賀副学長(学長代理)、谷澤副病院長(医学部附属病院長代理)、中村白蘭会理事長、福本霜仁会会長、御遺族、白蘭会会員および教職員・学生等約380人が出席しました。

日本フィルハーモニー交響楽団

弦楽四重奏コンサート



病院ロビーで開かれたコンサート

10月11日(土)、外来診療棟1階ロビーにおいて、入院患者さん等へのサービスの一環として「宇部興産グループふれあいコンサート 日本フィルハーモニー交響楽団弦楽四重奏コンサート」を開催しました。

これは、宇部興産及び楽団のご厚意により、4人の弦楽器奏者に演奏していただいたものです。

入院患者さん、近隣住民の方など約180人の観客は、間近でのブクの演奏による弦楽器の美しい音色に触れ、時間が経つのも忘れ、聴き入っていました。

平成26年度

医学教育等関係業務功労者表彰



このたび、看護師の河村光男さんが、平成26年度医学教育等関係業務功労者表彰を受賞しました。

本賞は、文部科学省から医学または歯学に関する教育、研究や患者診療等の補助的業務に関して顕著な功労のあった者に対して贈られるものです。

男性看護師の先駆者として多年にわたり、看護業務に従事してきたことなどの功績が称えられました。

中国地区DMAT連絡協議会実働訓練



11月8日(土)、中国地区5県の災害医療チームDMAT(ディーマツト)が山口県に参集し、急性期の医療活動を効率的に行うための訓練が実施されました。

DMATとは、大規模災害等が発生した場合に、急性期に現場等で活動できる機動性を持った医療チームのことです。

今回の訓練には約300人が参加し、本院にも県内外からDMAT6隊が参集し、被災現場から多数搬送されてきた患者さんへの救急処置、また本院では収容しきれなくなった患者さんを県外の病院に搬送するために、山口宇部空港へと実際に搬送する訓練を行いました。

平成26年度

総合訓練



11月18日(火)、宇部市中央消防署の指導協力のもと、医学部長・附属病院長をはじめ約100名の参加により総合訓練を実施しました。

訓練では、夜間に第一病棟6階のデイルームから出火したとの想定により、6階での通報連絡・初期消火・避難誘導の訓練を行い、避難先での自衛消防団・応急救護所の設置・報告訓練を行いました。その他各階でも避難誘導の訓練を、レスキューマットを実際に用いて水平移動訓練を行いました。

宇部市中央消防署からは、自衛消防は人命の安全を第一とし、消火器・消火栓・防災扉など消防設備にも精通してほしいとの講評がありました。

編集後記

新年あけましておめでとうございます。病院だよりは、本号で220回目の発行となりました。1994年4月に第1号を発行してから、今年で21年目を迎えます。本年も病院の旬の情報をたくさんお届けいたします。よろしくお願いいたします。

皆さんからのご意見・ご感想をお待ちしております。今後読んでみたいテーマ、興味のある記事などお気軽にお寄せください。
FAX 0836-22-2113 E-mail me202@yamaguchi-u.ac.jp

企画発行：山大病院だより編集委員会
事務担当：山口大学医学部総務課総務係
〒755-8505 山口県宇部市南小串一丁目1番1号
TEL 0836-22-2007 URL <http://www.hosp.yamaguchi-u.ac.jp>

